

平成24年度（第16回）

熊本市中学生による

子ども議会

と き 平成24年8月3日（金）午後1時30分

ところ 熊本市議会議場

議事次第

- 市議会議長あいさつ
- 子ども議会議長選出
- 開会
- 子ども議会副議長選出

議事日程

第一 市長施政方針演説

第二 一般質問

- | | |
|-----------------------------|-------|
| 1 納税意識の向上への取り組みについて | 【第1班】 |
| （1）公務員の不祥事について | |
| （2）納税意識の向上のための取り組みについて | |
| 2 市政といじめについて | 【第2班】 |
| （1）市政について | |
| （2）いじめの予防について | |
| 3 高齢者の生きがい対策と、障がい者の就労支援について | 【第3班】 |
| （1）高齢者の生きがい対策について | |
| （2）障がい者の就労支援について | |
| 4 地下水の保全と、ごみの減量の取り組みについて | 【第4班】 |
| （1）地下水保全の意識向上に関する取り組みについて | |
| （2）ごみの減量の取り組みについて | |
| 5 熊本の農業のさらなる発展と、熊本城の活性化について | 【第5班】 |
| （1）熊本の農業のさらなる発展について | |
| （2）熊本城の活性化について | |
| 6 白川の洪水対策と、自転車の利用促進について | 【第6班】 |
| （1）白川の洪水対策について | |
| （2）自転車の利用促進と安全確保について | |

- 閉会
- 市議会副議長あいさつ

平成24年度（第16回）熊本市中学生による子ども議会

1 目 的 子どもたちの市政に対する意見を聞くとともに、次代を担う子どもたちが熊本のくらしや未来について語り合い、市民としての意識を高める。

2 主 催 熊本市・熊本市議会・熊本市教育委員会

3 参加者 熊本市内の中学生 52人

熊本市立中学校42校から42人、私立中学校8校から8人、
熊本大学教育学部附属中学校から1人、熊本県立熊本聾学校から1人

4 内 容 研修会① 7月26日（木） 9:30～16:30 市議会について、質問作り
研修会② 7月27日（金） 9:30～16:30 質問完成、リハーサル
本会議当日 8月 3日（金） 9:30～12:00 リハーサル
13:30～15:30 本会議

議会常任委員会分野ごとに編成した各班（6班）が、市政に対する要望・疑問等をもとにして、改善案や提案を盛り込んだ質問を作成し、本会議において質問をする。

5 参加者の感想

- ・ 提案や質問を考えた時のように、熊本市民として、これから市政に目を向けていきたい。
- ・ 市政に対して、結構考えることができた。今までニュースを見ても、わからないこととか、関係ないことと思っていたけれど、ニュースもこれからは真剣に見たい。人との交流の仕方も学べたので、これからもこの経験を生かしたい。
- ・ とっても感動した。中学生の意見を本気で受けとめ、考えてくれるこんな機会は、なかなかないと思った。
- ・ 班で話し合っている時のおとなのスタッフのみなさんが、すごく真剣に時間をかけて考えてもらった。アドバイザーをはじめ、たくさんの方の支えによって成功できた。
- ・ 人前での発言力だけでなく、計画力、感謝する心、礼儀やあいさつなどについても学ぶことができた。そしてなにより班のみんなとの絆を深められたことは、すごく良かった。
- ・ 周りの人が学校代表という強い責任感を持っている中、自分の覚悟の軽さに気づいた。これからはもっと強い責任感と覚悟を持って引っ張っていけるような人間になりたい。
- ・ 僕の発表の声も分かると言ってくれたので自信がついた。口話も有意義に使いたいと思った。
- ・ これから今まで以上に市政に関心を深め、学校でも、いじめ問題や家庭で取り組めることを実践していきたい。パンフレットなどにも目を通したい。
- ・ 難しい話や分からないことがたくさんあったけれど、何より市長さんたちが私たち中学生の提案などを聞いてくださったのがうれしかった。大変だったけど、すごく楽しかった。
- ・ 自分たちの班だけでなく、他の班との交流もできるといいと思った。



（高校生の意見より）

- ・ 私の知らなかったことを今回の会議で学ぶことができて、とてもよかった。
- ・ 高校生が考えつかないことが結構出てきたので、中学生はすごいと思った。熊本市には、改善すべきところがいくつかあると思う。それを私たちも一緒に考えていけたら、熊本市がさらに良くなると思った。
- ・ 子ども議会のことを、高校の文化祭で伝えていきたい。

平成24年度(第16回)熊本市中学生による子ども議会 質問・答弁骨子

	質問項目	質問内容	答弁内容	担当局
1班	納税意識の向上への取り組みについて	(1)公務員の不祥事について	行政の仕事は、住民福祉の向上のために、道路や橋梁などを整備したり、学校施設などの教育環境を整えたり、高齢者などに保健福祉サービスを提供するなど、様々な事務事業を行っているが、この仕事に従事する公務員の人件費は全て税金により賄われている。 このため、公務員は法律で、「全ての職員は全体の奉仕者として公共の利益のために仕事を行う」と規定され、採用時にもこのことを宣誓することが決められている。公務員は、高い倫理観を持ち、住民から信頼される職員でなければならないと考えている。 公務員の不祥事が起きていることは大変残念に思っている。本市では、公務員倫理研修や職場ごとの話し合いをするなど様々な取り組みを通じて、職員一人ひとりが「常に地域や市民のために貢献する」という意識を高める取り組みを継続的に行っている。 熊本市も指定都市となり、市民の皆さんの市政に対する期待が一層高まっている状況の中、納税意識の向上のためにも、これまで以上に、区役所などの身近なところで市民の皆さんに質の高いサービスを提供することで、市政に対する信頼を高めるよう全力をあげていきたいと考えている。	総務局 (市長答弁)
		(2)納税意識の向上のための取り組みについて ・納税意識の向上と納税推進への取り組みについて	市税に関する情報やその使い道について、「市政だより」や「ホームページ」への掲載をはじめ、テレビやラジオの市政広報番組を活用し、その周知に取り組んでいる。このほか、市税の使い道をより分かりやすく説明するため、「財政ってなあに」を作成し、丁寧な説明に努めている。 一方、児童や生徒向けには、税務署や学校等と連携し、各学校において、「税の使いみち」、「税の役割」、「税の必要性」等について説明を行う租税教室を開催している。 学校で租税の役割を理解する補助教材として使用してもらうため、中学3年生に「わたしたちの生活と税」、小学6年生に「わたしたちのくらしと税」を配付するとともに、毎年11月の「税を考える週間」には、ポスターや作文等の「税に関する作品」を募集し、入賞作品の展示や「小・中学生の税の作品集」を作成し、各学校へ配付している。 皆さんからの提案である学校での講演会や税についての資料の配付についても、税の意義や重要性を知ってもらうため、大変有効な手段であり、非常に重要であると考えている。 今後も税務署や学校等の関係機関と連携を図りながら、租税教室の更なる充実と、市税を分かりやすく解説した「市税のしおり」等の作成について検討していきたい。	財務局 (財務局長答弁)
2班	市政といじめについて	(1)市政について ・市政だよりを読んでもらえる工夫について ・若年層の市政やまちづくりへの参加について	市政だよりは、現在毎月31万部を発行している。また、地域の身近な行事やイベントなどの情報を分かりやすく伝えるため、市政だよりのほかホームページやフェイスブック、メールマガジンなどの様々な媒体も活用し、情報を発信している。 中学生には、まだまだ難しい内容があるかと思うが、地域のまちづくりに興味を持ち、参画してもらうことが大切なので、これまで以上に内容や表現を工夫して、親しみやすく、わかりやすい市政だよりにしていきたい。 次に、若年層の市政やまちづくりへの参加についてはとても重要と考えている。そこで、本市では、「自治基本条例」を施行し、未成年の市民が市政やまちづくりに参画できる環境づくりに努めることとしている。例えば、中学生、高校生を対象にした「ゆめトーク」、家族で参加できるシンポジウムやアンケートなどで意見を寄せる機会を設けている。 また、若い世代の活動事例としては、高校生の「サムライ祭」がある。このような地域のまちづくりや福祉、環境などの分野での市民公益活動は、これからの市政・まちづくりに不可欠であることから、市民や事業者の寄附で活動資金を支援する「市民公益活動支援基金（くまもと・わくわく基金）」を創設した。 地域のまつりや美化活動、廃品回収などの身近なボランティア活動に参加することも、市政・まちづくりへの参加の第一歩になる。皆さんも、魅力ある熊本市づくりのために今後も積極的な参加をお願いしたい。	企画振興局 (市長答弁)
		(2)いじめの予防について ・いじめに関するアンケートの実施について	教育委員会としては、これまででも、いじめは絶対に許されない、また、どの学校でも起こりうるものにとらえ、いじめの未然防止と早期発見、早期対応を学校へ徹底している。しかし、最近のいじめは携帯電話やパソコン等が関係することで、一層見えにくいものになっている状況を見ると、さらにいじめの解消に向けて取り組まなければならないと強く思っている。 これまですべての学校でいじめに関するアンケートが実施されているが、アンケートの回数を増やすことが、いじめの未然防止、早期発見の観点からもより有効であると考えているので、今回の提案を受け、市内全校で毎月1回アンケートを実施する方向である。 アンケートの名前を「K I Z U N A アンケート」にしてはどうかとの提案であるが、とても親しみやすく中学生の思いが込められたネーミングであると思っているので、教育委員会から各学校に対して、アンケートの名前を「K I Z U N A アンケート」としてはと提案する。 学校独自に行っているアンケートの内容については、友達のいいところを記入できるような項目や簡単に答えられる形式を取り入れることはよいことだと思っているので、各学校と記入しやすいアンケート内容について工夫をしていく。 教育委員会も、これまでの取り組みを一層充実させながら、全力を挙げていじめの問題に取り組んでいくので、学校でも学級や生徒会の中で話し合いをするなどの機会をもち、学校全体で絶対にいじめを出さないという強い決意をもっていじめの問題に取り組むことを希望する。	教育委員会事務局 (教育長答弁)

平成24年度(第16回)熊本市中学生による子ども議会 質問・答弁骨子

	質問項目	質問内容	答弁内容	担当局
3班	高齢者の生きがい対策と障がい者の就労支援について	(1) 高齢者の生きがい対策について ・高齢者の生きがい対策のための地域への働きかけについて	高齢社会が進展していく中、「いくつになっても生きがいを持ち続けられる社会」をつくっていくことは本市の大きな目標であり、そのことを達成するため、高齢者の生きがいづくりを支援していくことは、重要であると認識している。 こうした中、高齢者と地域との交流の場の提供に関する取り組みとしては、老人クラブなどの地域活動、シルバー人材センターによる高齢者の雇用支援をはじめ、老人福祉センター・老人憩いの家等の交流拠点や生きがい作業所等の趣味活動の場など各地域に様々な施設があり、多様な活動が実施されている。今後は、子ども世代など幅広い世代との交流を深めていくことが重要である。 特に、昨年度の子ども議会で提案された高齢者の見守り活動としての「ジュニアヘルパー養成事業」も実施しており、7月末現在18校405人の中学生が参加している。今後とも、中学生と地域のまちづくり関係者との連携を更に深めながら、対象となる高齢者の見守り活動を進めていきたい。また、地域での交流を活発にするため、市内27カ所にある高齢者の総合相談の窓口である「高齢者支援センターささえりあ」を中心に、地域における高齢者支援等に関する情報提供をさらに進めたい。 高齢者に関わる取り組みについては、今後とも各地域の特性に応じて、地域全体で高齢者を支える仕組みを構築していきたい。中学生にも地域の高齢者と積極的にいかかわりを持ってもらうことを期待する。	健康福祉子ども局 (市長答弁)
		(2) 障がい者の就労支援について	本市における障がい者の就労を取り巻く環境については、一般企業等で働きたいという障がい者が増加傾向にあるものと認識しており、そうした障がい者の就労支援を充実させていくことが必要と思う。市役所でも就労する場の提供を行う一方、将来の就労につながる「就労移行支援事業」や「就労継続支援事業」による就労支援を行っている。 指摘のあった「就労移行支援事業所や就労継続支援事業所が区によって差がある」点については、就労を希望する障がい者の居住地やそのニーズに応じた対応が必要であると考えており、その開拓に努めていきたいと思っている。 また、障がい者の就労支援を進めていく上では、障がい者が働きやすい職場を確保していくことが必要不可欠であり、障がいがあっても作業を容易にする設備の整備等を行う事業主に対する助成金など、国の助成制度が活用されるよう案内をしていくとともに、障がい者雇用の求人開拓を行うハローワーク等とも連携をしながら、障がい者雇用に対する理解や働く場の確保を求めている。同時に、聴覚障がい者を含め障がい者に対し、情報のバリアフリー化を図っていくことは重要と考えており、障がいがあっても安心して生活できる環境整備に努めていく。 障がい者が就労しやすいよう支援していくことは重要と考えており、今後、個々の特性に応じた、きめ細やかな就労・生活支援や、就労先の確保を行うなど、就労を支援する新たな仕組みづくりに努めていきたい。	健康福祉子ども局 (副市長答弁)
4班	地下水の保全とごみの減量の取り組みについて	(1) 地下水保全の意識向上に関する取り組みについて	本市では、これまで地下水保全に関する市民意識を高めるため、市政だよりや市のホームページ「くまもとウオーターライフ」などで情報発信を行ってきた。今後は皆さんにとって身近なテレビやラジオなどの更なる活用や小・中学校へのパンフレット配付など積極的に取り組んでいきたい。 また、「日本一の地下水都市熊本」をPRする手段として、水のペットボトル「熊本水物語」を本市を訪れた県外のお客様に提供し、本市の魅力を知ってもらうことに活用している。 一方、節水をイメージしたキャラクターの「節水ちゃん」に活躍してもらっているが、各区役所を中心とした「区民節水デー」には、「くまモン」にも応援してもらっているところである。今後とも、親しみやすい啓発方法を考えていく。 本市では、水の大切さをわかっていただく取り組みとして、学校における水の学習や「雨水貯留タンク」の設置などを実施している。また、全国で初めての「水」に関する知識を問う「くまもと水検定」においては、これまで約1,500人の中学生に受験してもらっており、ぜひ多くの人に挑戦してもらいたい。 このほか、スタンブラリーやボランティア活動などの新たな取り組みについては、「わくわく江津湖フェスタ」などの中で実施できるよう検討している。 今後とも、市民、事業者、行政が協働で地下水保全活動に取り組んでいくことが大切であり、清れつて豊富な地下水を将来に守り伝えていくために、皆様にも協力をお願いしたい。	環境局 (市長答弁)
		(2) ごみの減量の取り組みについて ・ごみが出されないための取り組みについて ・生ごみ減量とリサイクルの周知方法について	ごみが出されないための事業者への働きかけであるが、現在、39事業所、88店舗、5市民団体から、レジ袋削減の取り組みと併せて、マイバック持参率の向上に協力をもたらしている。今後とも、マイバック持参率の向上を図るため、本市における協力事業者を増やすとともに、近隣市町村においてもこの取り組みを拡大していきたいと思っている。 7月に策定した「生ごみの減量とリサイクルの推進に関する実施方針」では、小売店等の事業者に対して、ごみの発生抑制に係る働きかけを行うことを位置づけ、今後、具体的な取り組みを進めることとしている。 一方、市民一人ひとりが、ごみ分別やごみ出しマナーを徹底して取り組んでもらうことが重要である。 家庭で取り組める生ごみの減量やリサイクル手法の周知については、生ごみが出ないエコクッキングレシピ、また家庭用生ごみ処理機や手軽に生ごみを堆肥化できる段ボールコンポストの活用など、家庭で簡単に実践できる事例を継続的に案内することが重要と思っている。 本市では市政だよりをはじめとした本市の広報媒体やテレビCMなど、これまでも様々なごみ減量の広報啓発を行ってきたが、子どもから大人まで広く知っていただくため、提案された「ひごまる」や「くまモン」を活用したPRについても、今後取り組んでいきたいと思っている。今後とも家庭や学校において、ごみの減量をはじめ、節水、節電など、身近で手軽にできるエコ活動に取り組んでいただくよう、よろしくお願いする。	環境局 (環境局長答弁)

平成24年度(第16回)熊本市中学生による子ども議会 質問・答弁骨子

	質問項目	質問内容	答弁内容	担当局
5班	熊本の農業のさらなる発展と熊本城の活性化について	(1)熊本の農業のさらなる発展について ・農家の収入安定のために実施している取り組みと今後の方向性について	本市では、食糧の安全供給を図る観点から、また熊本の豊かな地下水や自然環境を守るためにも、農業振興は大切な取り組みであると考えている。 そのような中、販売システムを有するホームページの作成については、本市の農水産物の魅力を全国の方々に知っていただくため、今年3月から「くまもと農商工連携サイト」を開設している。現在の登録者数は71団体で、今後もサイトの魅力を高めるとともに、国内外に向けて本市の農業をアピールしていく。 次に、地元の野菜と分かるようなマークを付けてはどうかとの提案であるが、現在「ひご野菜」、「植木すいか」などのほか、JA熊本市の「夢未来」やJA鹿本の「夢大地」など、既に統一ブランドマークを付けているものもある。また、熊本県では、環境にやさしい「くまもとグリーン農業」の印として、くまもん表示マークの使用を始めた。今後も消費者に地元の農作物と分かるような取り組みに対して、本市としても応援をしていく。 熊本の農産物のブランド化をはじめ、生産者が自ら加工や販売を行う取り組みの支援、地元での消費拡大に向けて、コンビニエンスストアと連携した商品の販売、また、城南町と植木町に農産物の直販所整備を計画しているほか、地元飲食店やホテル等へ流通させる仕組みづくりなどにも取り組んでいる。 本市では、農業がこれからも成長・発展していくよう積極的に取り組んでいくが、中学生にも地元の農産物をもっとたくさん食べてもらいたいし、また、将来の職業として、農業もぜひ考えてもらいたい。	農水商工局 (農水商工局長答弁)
		(2)熊本城の活性化について ・城彩苑の歴史的雰囲気醸成について ・熊本城と城彩苑の回遊性向上について	熊本城や城彩苑への歴史的雰囲気の醸成について提案があったが、これまで熊本城内においては、売店従事者の制服をお城の雰囲気に合わせ統一するとともに、忍者や甲ちゅう姿の武将を配置し、往時の雰囲気を醸し出しているところである。 城彩苑に outlets している店員の服装や言葉遣いを江戸時代をイメージしたものにすることによって実現すれば、歴史的な雰囲気が出て、城彩苑の魅力向上に繋がるものと期待している。 一方、城彩苑は、レストランや土産物屋など民間の企業と、本市の歴史・文化を体感できる「湧々座」などで構成される複合施設となっている。このため、このような各施設の情報の共有や連携の促進を目的に関係者で「桜の馬場地区運営協議会」組織している。そこで、江戸時代をイメージした展開については協議会の中で検討していきたい。 熊本城と城彩苑の回遊性の向上については、“熊本城おもてなし武将隊”が、「おもてなし武将隊と行く熊本城ツアー」と銘打ち、熊本城から城彩苑への案内を実施するほか、城彩苑から熊本城、あるいは、熊本城から城彩苑への案内も行うこととしている。 また、シャトルバスについては、今後も様々な機会を捉え周知に努め、バスの利用を増やし、熊本城と城彩苑の回遊性の向上に繋げていきたい。 皆さんにも、熊本城と城彩苑に気軽に来ていただくとともに、観光都市熊本の一員として、本市のPRに是非協力をお願いしたい。	観光文化交流局 (市長答弁)
6班	白川の洪水対策と自転車の利用促進について	(1)白川の洪水対策について	白川の洪水対策は、河川管理者による河川改修などのハード対策と、市が行う避難場所の整備などのソフト対策があり、このハードとソフトが一体となった、総合的な洪水対策が必要である。 まず、ハード対策は、河口から小碓橋までの区間を国が、小碓橋から上流の区間を熊本県が管理している状況である。国が管理している区間の改修状況は、本市中心部である八城橋から竜神橋の10.5Km区間において堤防の整備や橋梁の改築が行われており、県管理区間については、小碓橋から上流約1kmを国の整備との一連区間として用地買収を進めている。 次に、ソフト対策は、水位観測や監視カメラ等による情報収集体制の強化や、サイレン等の市民への災害に関する情報伝達手段の整備等について国や県と役割を分担し、早急に対応できるものから可能な限り速やかに対応したい。 また、提案内容の避難場所については、現在、市域に253箇所の一時避難場所を指定し、そのうち176箇所が小中学校等の建築施設を有するものである。 洪水に対する避難場所については、洪水に耐えられる高さや、強度が十分であるかについて確認して指定している。今後も、非常食や生活物資の備蓄など、避難場所の更なる充実、確保に努めていきたいと考えている。 皆さん一人ひとりが、様々な災害等に対し危機意識を高く持って、それぞれの学校で避難訓練などの防災への取り組みを積極的に推進されるようお願いしたい。	都市建設局 (市長答弁)
		(2)自転車の利用促進と安全確保について ・自転車利用促進のための取り組みについて ・自転車利用の安全確保について	本市では、市内中心部でレンタサイクル事業を始め、城彩苑やホテル、熊本電鉄の藤崎宮前駅など6箇所で電動アシスト付自転車を貸し出している。 また、商店街で配布している駐輪サービス券については、自転車で中心部の商店街へ訪れ、買い物をする駐輪場利用者の利便性向上のため、関係部署とともに各商店街への普及の働きかけを行っていききたいと考えている。 提案があった自転車利用促進キャンペーンについては、4月に実施された「アーウィークくまもと2012」の「ノーマイカーデーパレード」で、これまでの徒歩通勤に加え、今年から環境にやさしい自転車による通勤を呼びかけ、このような取り組みを継続していきたい。 自転車利用を推進するために、自転車のメリットを市民に理解していただけるように、ホームページやフェイスブックなども活用しながら、機会を捉えてPRしていきたい。 次に、自転車の安全性の確保について、本市では、ハード面での安全対策として自転車専用レーンや、仮称「白川自転車ハイウェイ」の自転車道の整備について、本年度より取り組みを始めたところである。 提案の時間帯における自動車の進入規制については、安全性の確保の点で有効な手段の一つと考えられる。学校の近くなど、歩行者が多い道路については、今後も学校関係者や地元の方々の要望に基づき、更に歩行者と自転車が安全に通行できるように交通管理者、警察等に働きかけていきたい。 また、それぞれの学校で、自転車マナーの向上のための行動に是非取り組んでもらうことをお願いしたい。	都市建設局 (都市建設局長答弁)